

ゆきちゃん通信

2000年6月5日

No.8

発行人 tomi



前号で落ちこんでしまった由紀子の様子をお伝えしました。あれから二ヶ月が過ぎ由紀子はすっかり立ち直って、またニコニコの笑顔で学校へ出かけて行くようになりました。辛かった時期、学校の先生方が由紀子をしっかり支えてくださいました。今回は由紀子が大好きな学校の先生方の特集を試みようと思います。

校長先生

毎朝校門の所に立って子ども達を迎えてくださる校長先生に、由紀子は『おはようございます。』のご挨拶をするのが日課でした。ある朝、由紀子を送って行っていつものように少し離れた所から見送っていると校門の近くで由紀子の足が止まってしまいました。校長先生がいないのです。3分程そのまま立っていたでしょうか、背中を押しに行こうかと思った時、校長先生が出ていらしゃいました。するとどうでしょう由紀子はニコリ笑って走り出し校長先生に抱きついて行きました。その頃からです、由紀子にとって校長先生は特別な方になりました。毎朝のご挨拶はもちろんの事、昼間も校長室を覗いては校長先生の顔を見に行くようになりました。教室が二階になって階段の上り下りが辛かったけれど移動の途中で校長室があったお蔭でこれもクリアできたのでした。

M原先生

保健室の先生です。とてもやさしい先生でいつも由紀子の事を気にかけてくださいます。そしてM原先生と由紀子の間には二人だけの合言葉があります。『ごきげんいかが？』…。どこでも、先生の姿を見るとピューと走って行ってこの言葉をかけにいけます。どんなに遠く離れていてもです。例えば、放課後、校門を出ようとした時でも保健室から外に出た先生の姿が見えたら…もうダメです。運動場を横切って一目散に走って先生の元へ…。ハアハア息を切らせながら『ごきげんいかが？』。先日も雨の中傘を放り投げて運動場の真ん中を走って行きました。(笑) きっといつもニコニコと返事をしてくださるM原先生のやさしい笑顔がたまらなく好きなのでしょうね。

K林先生

交流学級の担任の先生です。前号でも、ご紹介しましたが由紀子はM先生と呼びます。ベテランの先生で由紀子をゆったりと見てくださっています。毎朝時間割を確認するのですが音楽と生活科・体育の言葉が出ると「Mせんせいだあ！」といいます。細かな所に気を配ってくださる先生を親子共々頼りにしています。時々黙って教室を抜け出して先生をハラハラさせる事もありました。申し訳ありません。

他にも由紀子にかかわってくださる先生方がたくさんいます。紙面の都合でご紹介できないのが残念です。これも担任のY田先生が毎日『えがお』と名づけられた通信で、全部の先生に5組の子ども達の様子を知らせてくださっているお蔭です。去年の『えがお』の発行号数は180号程もありました。

前号でツライお別れをお伝えしたO野先生と運動会の日に再会をしました。この満面の笑みを見てください。再会という事をどうして受け入れる事ができず強烈なパニックを起こしてしまう由紀子がついにその壁を破ったのです。でも、この笑顔の裏にはたくさんのお話があるのです…。まずこの再会を果たせたのは、ひとえにY田先生とO野先生の努力のお蔭なのです。Y田先生はO野先生とお別れをしたその日から毎日『運動会に、O野先生がくるよ！』と言いつづけてくださったのです。まず『運動会』が由紀子の中にインプットされていきました。そして、次は手紙です。「ゆきこ」としか文字の書けない由紀子の手を取って手紙を書かせてくれました。その後、O野先生から返事がきた時の由紀子の喜び方は大変なものでした。書けなくても読む事はできる由紀子です。何度も読み返しては『運動会にO野先生がくるよ！』と繰り返していました。さらに、次は電話です。家から夜にO野先生の所に電話をさせるように指示をされて最初は私が付き添ってかけさせたのですが、『キヤ〜！』の一声をお伝えしただけで終わってしまいました。その翌日、Y田先生は、O野先生と連絡を取って、携帯を使い空き時間に、もう一度電話をかけたしてくれました。そして、そこで二ヶ月ぶりにO野先生とお話が出来ました。これだけの準備をして運動会のこの再会があったのです。それでも、最初にO野先生を見た時は顔は笑っていたものの身体は緊張してどうしても側に寄る事ができませんでした。先生が近づくと逃げ出してしまいます。私はこのまま終わるのかと思ったのですが、先生方はあきらめず何度も由紀子にチャンスを作ってください、最初に会ってから3時間後にはこの写真の笑顔です。由紀子の難しい世界の前に嘆くばかりで努力をしなかった自分がはざかしいと思えました。今回の事でお二人には頑張れば由紀子の世界の扉をこじ開ける事ができることを学ばせていただきました。由紀子はまたO野先生と会えることを信じて今から楽しみにしています。

